

# 営業地盤を考慮した地域銀行技術効率性と多角化戦略

## —Non DiscretionaryDEA モデル—

青森公立大学大学院 山本 俊

本稿は経営多角化が金融機関経営に与える効果を技術効率性の視点から、実証的に検証する。この検証を行う前に、従来の地域金融機関効率性研究では注目されてこなかった効率性測定面での2つの問題に注目した。

第1は、金融機関にとって外生的な要因が効率性の測定に与える影響である。本稿は、地域金融機関を分析対象としていることから、効率性に影響する外生要因として、地域性に注目し、その影響を制御して効率性を測定するために、Non-discretionary DEA を用いた。

第2は、金融機関内部の意思決定の効率性への効果は、即時に実現しない可能性を考慮したことである。本稿では、一定時間を通じて効率性を用いるのに、widow 法を用いた。

これらに関連して、ND-DEA の必要性の検証を行った。従来の研究で用いられてきた通常の DEA による効率性は、地域性の影響を受けた見かけの効率性である可能性が高いことから、ND-DEA を考慮する必要がある。つぎに、ND-DEA により外生要因の影響を制御して測定した効率性と従来の効率性とを比較した結果、特に経済水準が停滞している地域の銀行に地域制による大きな負の影響があることが確認された。また、ND-DEA により効率性を測定し、技術的非効率性と規模的非効率性の大きさを比較した結果、従来の DEA により先行研究で報告されている結果とは異なり、規模的非効率性の方が大きい結果となった。

以上を踏まえ、生要因の影響を制御しない従来の DEA による効率性測定を window 方により、一定期間を通じて測定し、銀行経営の多角化との関係を分析した結果、経営多角化による効率性への影響は確認できなかった。しかし、ND-DEA による効率性測定を window 方により、一定期間を通じて測定し、銀行経営の多角化との関係を分析した結果、経営の多角化は、効率性を高める上で有効であることが確認された。

従って、本稿では、経営多角化に意欲的な銀行ほど、規制緩和や情報通信技術の発達による環境変化を巧みに利用し、効率性を高めている可能性がある結論付ける。